

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	地域との繋がりを大切にし、概ね3km以内の方より利用して頂いております。 その方の生活パターンや習慣・家族状況に応じ柔軟なサービス提供を行う事で、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていける事をお手伝いしています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 千手	管理者	渡辺 真貴子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	1人	1人	1人	人	3人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の情報共有の為に用紙、記入する内容についての検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートの外に特記事項連絡板の活用により、その日のご利用者様の変化やケアの留意点等を気付いたスタッフが記入しやすく情報共有がスムーズに行えるようになった。又、特記事項連絡板を用いて昼礼を行うことで、より詳細な情報整理、把握に繋がっている。 	<p>事業所自己評価の5「多機能性のある柔軟な支援」6「連携、協働」の項目において。</p> <ul style="list-style-type: none"> 民生委員の集会に時々、参加し地域住民の情報交換を行うことで、連携した支援ができるケースもあると思う。また、地域の方とのネットワークが広がると思う。 「若手人員確保の困難な状況の中、町内のイベントに協力頂いてありがたい」 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様、地域支援の広がりを目指すとし、民生委員の方の集会へ参加する等、繋がりを持っていく。 「外部評価結果まとめ」の際の進め方について「事業所自己評価」の項目に沿って、丁寧に内容説明を行い十分理解して頂いた上で評価を頂けるよう努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 職員がいなくても玄関から中に入りやすい雰囲気作りを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道路沿いの入口、地域交流スペース入口に看板を設置した。また、入りやすい工夫として外から屋内の様子が見える様カーテンを開け出入り口の扉も開けておく様にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 玄関にお花、マスクが置いてあり来所者に対する配慮がなされている。 3事業所が併設されていることから、初めての来所者は戸惑ってしまう。案内の工夫が必要と思う。 事業所内の気になる臭いや音は感じない。 	<ul style="list-style-type: none"> 玄関に案内板等を置き、スムーズに職員を呼び対応できる工夫を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> サポートセンターの存在を知る人が増やせるよう、行事や千手カフェの取り組みを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 回覧板を活用しイベントや千手カフェの案内を定期的に発信している。また、近隣の小学校とも交流が継続されている。以前に比べカフェの利用や介護相談での来所も増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、町内お祭への参加や行事の回覧等により、事業所の存在は地域の方に知られてきていると思う。 千手カフェ等の実施により介護相談等しやすい。 他地域では、集会場所探しに苦慮している所もあるので、地域交 	<ul style="list-style-type: none"> 行事、千手カフェの内容の検討を重ね、これまでの取り組みを継続していくことで、より多くの方に事業所の存在を知って頂くと共に地域との関わりを深めていく。

			流スペースが集会場所となることは、とても良いと思う。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 生活に不安のある利用者について、地域の民生委員やご近所等と情報共有を行っていく。 地域包括支援センター、民生委員と協力し、地域の心配な方の情報共有を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症を抱える一人暮らしの利用者様において、必要に応じ民生委員の方と情報交換をおこなっているケースもあるが、定期的とは言えず関係を深められてはいない。 ご近所や親戚の方からの相談ケースもみられるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの方も増えてきている中、生活に心配がる方において事業所が地域の一員となって、日頃より見守りを担ってもらうことは、出来ないか。 (不定期でいいので、自宅の電気がついているか。ポストの郵便物の受け取り状況等) 	民生委員の方の集会等に参加し、地域の心配事の実情の把握を行うことで、支援の連携を図り、地域のニーズの把握にも繋げる。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の取組みについて、運営推進会議で説明する機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動、登録利用者状況、ヒヤリハット、事故報告等の報告を行い意見を頂くことができた。 利用者の方の事例検討は行われなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の方々との繋がりを持ち、情報交換、共有が出来ると互いの対象者の方を柔軟にサポートできるのではないか。 運営推進会議資料にてセンターボランティア受け入れ人数を載せて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者様、地域の方のニーズ把握、柔軟な支援体制の広がりを目指すとし、民生委員の方々との繋がりを持って行く。 すべての職員が可能な限り、運営推進会議に参加できる機会を設け地域との繋がりについて考えを深める。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練に地域の方からも参加して頂く事や回覧等により、福祉避難所である事を地域の方に知って頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> 回覧や広報誌への掲載が不十分であり、地域への発信が弱かったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> この町内では、防災訓練の実施について検討したが、金銭的、人員確保の課題があり実施していない。幸い消防署が近隣であり対応が早いというメリットがある。事業所の火災時等の緊急連絡網には、町内会長への通報もあり体制、支援の対応は町内でも伝達周知を図っている。 	定期的な回覧、広報紙等により防災訓練の取り組みや福祉避難所であることの実情を継続して行っていくことで、地域の方に広く知って頂く。